



歴史を動かす2週間 私たちが戦争のない未来をつくる

8月30日、12万人が国会を取り囲み、全国1000箇所以上で「戦争法案ゼツタイ廃案！」「9条守れ！」の声が上がりました。9月14日の夜も45000人が国会を包囲しました。

「民主主義をあきらめない」と青年・学生の運動は広がり続けています。自民党や公明党支持者の方も「反対！」と声をあげています。世代を超え、党派を超えた運動の高まりが、安倍政権を追いつめています。廃案まで、あと一歩です。あなたの声で、「戦争する国」への道をストップさせましょう。私たち主権者の力で、戦争のない未来をつくりましょう。

「戦争法案 必ず止める！」「9条壊すな！」

強行採決 国民はゼツタイ認めません！

国民の6割以上が「今国会での成立反対！」採決は無理！

相変わらず、安保特別委員会での政府答弁は二転三転、迷走を続け、安倍首相の不規則発言もあいまって、審議は100回以上中断しています。安保法案のボロボロさは目をおおむばかりです。

国民の6割以上が「今国会での成立反対」、8割が「説明不十分」とする法案の強行は、国民主権を踏みにじるものです。「国民の理解が得られなくても成立」させる（高村副総裁）など、到底、認めることはできません。

ひとかけらの道理もない戦争法案は廃案しかない！

「ホルムズ海峡の封鎖」「邦人輸送の米艦防護」、どちらの事例も破たんしました。何のために安保法制が必要なのか、政府は説明できません。また、「戦闘地域」に送られた自衛隊が、武器・弾薬に加えて、核兵器の輸送までできるなど、米軍への兵站（へいたん）活動に歯止めがないことも明らかになりました。さらに、次々と出てくる自衛隊の内部文書は、「軍の独走」を浮き彫りにしています。

こんな法案は、廃案しかありません。

合憲論、完全に崩れる違憲の法案は廃案しかない！

圧倒的多数の弁護士・憲法学者などに続いて、「憲法の番人」である最高裁判所のトップ（長官）を務めた山口繁氏も、「違憲」と断じました。8日の特別委員会参考人質疑で、大森政輔元内閣法制局長官も、「（集団的自衛権行使容認は、憲法の）基本原則から逸脱」「無効」と厳しく批判しました。砂川事件最高裁判決についても根拠が崩れました。

違憲の法案は無効です（憲法98条）。廃案しかありません。

安保法案は国民を守るものではない！

「日本人の命を守るために」と安倍首相は繰り返します。しかし、集団的自衛権の行使とは、日本に武力攻撃していない国に、日本の側から武力を行使することです。相手国にしてみれば日本から先制攻撃を受けたことになりますから、日本を攻撃する大義名分を与えてしまいます。安保法案は、国民の命を守るものではなく、国民の命を進んで危険な戦争にさらす法案です。

米軍と自衛隊が一緒になって、世界規模で戦争する危険な法案はゴメンです。